

おかやま 河川だより

旭川特集



旭川、百間川分流部周辺

みなさんこんにちは。今回は旭川（あさひがわ）特集です。備前の「西の大川」といわれた旭川ですが、旭川と聞いて何を連想しますか。後楽園、百間川、そして北海道。いえいえ、それは「あさひかわ」です。

後楽園は、池田綱政が津田永忠に命じて造らせた庭園ですが、昭和の初め頃までは東側が陸地とつながっていました。百間川は、岡山城下を洪水から守るために造られた放水路ですが、昭和40年代までは川の中に農地があり、江戸時代につながる原風景が残っていました。みなさん、ご存じでしたか。そんな旭川を、これからどのようにしていくのか。みなさんと一緒に考えてみたいと思います。

（調査設計課長 上橋 昇）

この広報紙は、県内市町村の広報コーナー、岡山河川事務所並びに各出張所に置いてあります。また、岡山県内の道の駅及び高速道のサービスエリアにも置いてありますので、ご自由にお持ち帰り下さい。



吉井川



旭川



高梁川

岡山河川事務所
国土交通省 中国地方整備局

旭川

旭川のみらいの川づくり

旭川 ～その求める姿は～

旭川の将来のあるべき姿と、その実現のための取り組みについてとりまとめた「旭川水系河川整備基本方針」がまもなく策定されます。今後は、20～30年間に行う旭川の川づくりについて、ひろく地域住民のみなさんに意見を伺いながら具体化していきます。

それでは、旭川の将来像について、ご紹介します。

治水上の課題と対策

これまでの治水対策

旭川の治水対策の歴史は古く、江戸時代に岡山城下の洪水被害の軽減等を目的に、熊沢蕃山が越流堤と放水路を組み合わせた「川除の法」を考案し、津田永忠により旭川下流部から分派する百間川が築造され、貞享三年（1686年）に完成したと伝えられています。

旭川が国の直轄事業として着手されることとなったのは、大正15年でしたが、地元情勢により、実際に改修工事が始まったのは、昭和8年でした。その後、主に電力需要の増大に対処するため、昭和29年度に湯原ダム、旭川ダムが建設されるとともに、平成8年度までに本格的な放水路として改修された百間川は、両ダムと合わせて、岡山平野を洪水氾濫から守る大切な役割を果たしています。

現在は、百間川河口水門の排水能力を向上するための増設工事を行っています。近年では、平成10年10月洪水での浸水被害や、平成16年8月の高潮被害が発生するなど、低平地特有の内水被害も合わせて、未だ治水対策が課題となっています。



旭川ダム

旭川下流部の堤防整備状況

岡山市玉柏付近から河口までの国が管理する区間の堤防整備は、昭和8年の工事着手以降延々と続けられ、現在までに全体延長の約85%が完成しています。

しかしながら、堤防の土質状況によっては、洪水時の浸透により漏水が発生し、堤防の決壊につながる可能性も考えられます。このため、堤防の土質調査を実施し、浸透に対する安全性を調査しています。これまでに、国が管理する区間の約50%（H19.3時点）が調査済みで、そのうち6.2kmで堤防の補強が必要という結果が出ています。

課題と今後の治水対策

① 百間川河口水門は、計画の流量に対し水門が狭いため、堰上げが起きて洪水が周辺の堤防から溢れることが懸念されます。このため、河口水門の排水能力を向上させる必要があります。

➔ 百間川河口水門の増設（実施中）



増設工事中の百間川河口水門

- ②平成10年の洪水では「一の荒手」周辺の越流堤が壊れました。このように百間川の分流部が破壊した場合、洪水をコントロールする機能が失われ、百間川に計画以上の洪水が流入することが懸念されます。また、百間川の一部区間は、計画の流量を流すための断面が不足している区間があります。このため、分流部周辺区間について、堤防強化や河道掘削等を行う必要があります。 → **百間川分流部周辺の改修**

- ③東西中島地区周辺の地域は、洪水を流すための断面が不足しており、平成10年、平成18年の洪水でも浸水を経験しています。このため、中島地区周辺の改修を行う必要があります。

→ **東西中島地区周辺の改修**

- ④百間川分流部から上流の区間は、土砂の堆積や樹木の繁茂により、計画の流量を流すための断面が不足している区間があります。このため、この区間の樹木伐開、河道掘削等を行う必要があります。

→ **百間川分流部から上流区間の改修**

- ⑤河口部周辺は、ゼロメートル地帯が広範囲に存在し、平成16年の台風16号でも浸水被害を経験しています。このため、河口部周辺の高潮影響区間について、高潮対策を行う必要があります。

→ **河口部高潮対策の実施**



平成10年一の荒手越流状況



岡山平野を潤すかんがい用水

旭川の水は、かんがい用水、工業用水、水道用水などの生活用水として利用されていますが、その多くはかんがい用水で、国が管理する区間では、約77%を占めています。また、その内約9割の16m³/s余りが旭川合同堰から取水されています。この合同堰は、昔は「管掛用水」と「祇園用水」として5箇所堰から取水していたものを、昭和9年9月の室戸台風での被災を契機に統合したもので、昭和28年度に完成しましたが、それ以来、古くから続いた水争いが解消されました。

岡山市の水道用水の水源は半分以上を旭川に依存しています。平成に入ってから渇水により取水制限が行われたのは平成6年と14年ですが、実は(県民の皆さんは気がつかれなかったかもしれませんが)17年にも取水制限開始直前という状況にまで至っていました。今後とも適正な水利用が図られるよう関係機関、水利用者等と連携を図っていく必要があります。

自然環境の保全と再生

旭川の上流部は、中国山地の山あいを蛇行しながら流下し、瀬と淵が連続する溪流には、アマゴ、カジカなどが生息しています。また、源流部には国の特別天然記念物のオオサンショウウオが広く生息しています。中流部では、吉備高原の谷底平野を流下し、旭川ダムの湛水域を除けば瀬と淵が交互に現れる河川形態となっており、旭川ダム下流では、アユ、サツキマスの遡上が確認されています。下流部は岡山平野を流下し、川幅は広く、ゆったりした流れの中にいくつもの砂州が形成されています。瀬ではアユが産卵場として利用しています。

また、航路維持を目的にオランダ人のムルデルが明治期に提案し、昭和初期に設置されたケレップ水制(カレップ水制)周辺は、干潟とヨシ原が広がり、干潟にはヤマトシジミ等の貝類が、ヨシ原には環境省のレッドリストで絶滅危惧Ⅱ類に指定されている陸上昆虫のヨドシロヘリハンミョウが生息し、多様な生物の生息環境となっており、この良好な自然環境の保全に努める必要があります。

なお、下流部では河道の安定化に伴い、近年、河道内の樹林化や、アレチウリ、シナダレスズメガヤ等の外来種が急速に生息域を拡大しており、治水、環境面でも問題となっているため、樹木の計画的な伐開と礫河原再生等も含めた、河道の適正な管理が必要となっています。



ケレップ水制



河道内の樹木:中原付近

礫河原の再生と自立的維持



整備前(平成16年8月撮影)
樹木の除去と、中洲の高さを下げました。



出水後(平成19年9月撮影)
中規模の洪水によって、中洲が攪乱され礫河原が維持されています。

貴重な河川空間

旭川の上流部には、湯原ダム直下の河川敷に全国露天風呂番付で西の横綱に選ばれた湯原温泉の露天風呂があり、多くの観光客が訪れているほか、中流部の旭川ダム湖では釣りやボート遊び、河川の水辺では水遊びや自然観察の場として利用されています。また、国が管理する下流部の旭川、百間川の河川敷は、数多くのスポーツ施設や公園が整備されており、これらの貴重なオープンスペースは、市民の憩いの場として利用されています。さらに、岡山城や岡山後楽園と調和した河川風景は、旭川の代表的な景観となっています。

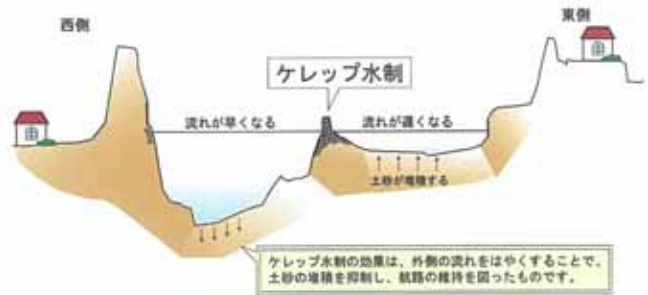
旭川では、古くは備前と美作を結ぶ交通としての舟運が重要な役割を果たして来ており、近世の初めには、高瀬舟が河口から勝山まで往来していましたが、鉄道等の交通機関の発達により衰退しました。現在、旭川の河口域には、多くのプレジャーボート等が不法係留されており、治水上の支障となることが懸念されており、関係機関との連携により、撤去等の対策を進める必要があります。



河川空間利用状況

ケレップ水制を知っていますか？

旭川東岸の平井地区から江崎地区にかけては、昭和初期に造られたケレップ水制が今でも残っています。明治から昭和初めにかけての河川工事は、洪水対策だけでなく主要交通が舟運ということもあり航路を維持する必要もあったことから、主に浚渫(しゅんせつ)や水制工といった低水路工事が進められました。ケレップ水制の役割は、河岸の浸食を緩和するとともに、流れを滞筋に集中させることで、土砂堆積を防ぐ役割がありました。現在、ケレップ水制は全部で19基が残っており、ケレップ水制周辺は、干潟やヨシ原があり多様な環境が維持されています。



ケレップ水制部の河川断面図

ワンポイントレッスン

水害対策は、事後対応より予防対策がお得！

近年の治水事業予算は、年々減少を続けています。また、河川管理施設の維持管理費が増大するとともに、毎年水害が頻発し、被災箇所への事後的な対応への投資の割合が増加して来ています。このようなことから、予防的な対策に投資する額はますます減少する見込みとなっています。一方、水害対策では、事後対応より予防対策の方がはるかに安くなるとの試算があります。

平成12年9月の東海豪雨では、約6,700億円の被害が生じましたが、仮に716億円の事前対策を行っておけば、約5,500億円の被害を軽減出来ていたという試算結果が出ています(図)。また、平成17年8月にアメリカ南部を襲ったハリケーン・カトリーナの災害では、約2,200億円を事前投資していれば、約14兆円分の被害が軽減出来たとされています。

今後は、予防的対策への投資を重視した対応を図って行く必要があると言えます。



3 その他の事例		被害軽減効果	再度災害防止の投資額
新潟・福島豪雨 (H16.7)	【新潟県・五十嵐川・刈谷田川】	約2,300億円	1230億円
福井豪雨 (H16.7)	【福井県・足羽川】	約540億円	355億円

※同様の降雨による内水又は越水による被害を計上。また、一部区間でHWLを超える場合があるが、破壊は想定していない。

吉井川 永安橋歴史記念碑が建立されました。

去る9月7日(金)、岡山市西大寺地区の郷土史研究グループ・西大寺愛郷会主催による「永安橋歴史記念碑」除幕式が行なわれました。この碑は、岡山河川事務所が吉井川河川敷の環境整備工事を施工した際、旧永安橋の左岸橋脚を一部保存し、その箇所に愛郷会の方々によって建立されたものです。

除幕式では、中村美佐雄会長が記念碑の建立に至った経緯や「西大寺の繁栄の足跡を後世に伝えたい」と挨拶され、出席された方々は、記念写真を撮ったり「この碑が、古き永安橋とともに地域の方々にも愛されることでしょう。」と想いを語られていました。



永安橋 歴史記念碑の除幕

旭川 一斉清掃が実施されました。

去る9月2日(日)に、旭川アダプト・プログラム(NPO法人「旭川を日本一美しい川に育てる会」主催)の、第2回目の河川清掃が実施されました。早朝(7時30分)から相生橋左岸の河川敷には約600人(参加総数約1,500人参加)の方々に参加いただき、岡山河川事務所からもボランティアとして7名が参加し共に汗を流しました。この清掃活動は、今年で7年目で、地域の行事として定着した感があり、今年度から、吉井川での清掃(約100人参加)も同時に開催され、今後も清掃活動の範囲を拡大していく予定です。



高梁川 高梁川スポーツフェスティバルが開催されました。

去る9月16日(日)に高梁川大橋以南から潮止堰以北の高梁川一帯において、高梁川を利用する水上スポーツ団体で作る実行委員会により、「ひとと水のふれあい」をテーマに第9回高梁川スポーツフェスティバルが開催されました。当日は時折雨が降りましたがウェイクボード大会、バス釣り大会、カヌー体験などがあり、大会終了後は参加者全員で河川敷の清掃が行われ、大勢の人が高梁川とのふれあいを楽しみました。



河川愛護月間 作文・ポスター

国土交通省では、毎年7月を「河川愛護月間」として、河川愛護に関して皆様の理解と協力をいただくため、様々な活動を実施しています。

岡山河川事務所では、毎年、小中学生の方を対象として、作文・ポスターを募集しています。今年度は、県内の小中学校等49校及び1団体から作文17作品、ポスター812作品という大変多数の応募がありました。そのうち河川愛護に関する思いがよく表現されていた作文4作品、ポスター15作品の計19作品を選考し、平成19年7月25日(水)に、倉敷アイビースクエアにおいて表彰式を行いました。



村岡 咲季さんの作品

作文の部		優秀賞(岡山河川事務所長賞)	
小学校低学年の部	倉敷市立沙美小学校	3年	山室 佳輝
小学校高学年の部	倉敷市立大高小学校	5年	河田 大将
優良賞(中国建設弘済会岡山支部長賞)			
小学校低学年の部	倉敷市立連島西浦小学校	2年	山本 真希
小学校高学年の部	倉敷市立玉島小学校	6年	小幡 葵子

ポスターの部		優秀賞(岡山河川事務所長賞)	
小学校低学年の部	倉敷市立第五福田小学校	2年	村岡 咲季
小学校高学年の部	三原色の会	6年	三村 恵未
中学校の部	赤磐市立鎗梨中学校	3年	井上 綾菜
優良賞(中国建設弘済会岡山支部長賞)			
小学校低学年の部	総社市立総社西小学校	3年	八幡 菜歩
小学校高学年の部	倉敷市立乙島東小学校	5年	平井 なつみ
中学校の部	岡山県立倉敷天城中学校	1年	福島 舌奈

みんなのVOICE



岡山河川事務所では皆様からのご意見・ご質問を頂き「voice」のコーナーでできるだけご紹介・お答えします。挟み込みのはがきで忌憚のないご意見を頂ければと思います。

国土交通省 中国地方整備局 岡山河川事務所
みんなのVOICE係

〒700-0914 岡山県岡山市鹿田町2丁目4番36号
Tel.086-223-5101(代表) Fax.086-222-7835
ホームページ <http://www.okakawa-mlit.go.jp/>